

評価計画				自己評価		学校関係者評価		次年度への改善策
重点目標	具体的目標	具体的取組事項	評価指標	評価	取り組み状況と課題	評価	意見	
生徒一人一人の理解に努め、生徒の基本的な生活習慣の確立を図るとともに、自立して生き抜く力を養う	教職員の生徒理解を深める	QUアンケート、学校生活アンケート、各種会議での情報交換、個別面談実施	学校評価アンケート	B	各種会議や委員会での情報交換をとおして、生徒の状況を把握することができた。生徒との個別面談の時間確保が課題。教員の生徒理解状況 QSE+：生徒 78、保護者 83。	C	<ul style="list-style-type: none"> ・夏服のシャツは裾を外に出す形がだらしく見える。裾を入れる形に統一してはどうか。 ・男女バランスの不均衡などにより、クラスに居づらい生徒もいるのでは。 ・地域行事などの際、あいさつが大変良い。学校内だけでなく、学校外でもあいさつする生徒が増えてきた。野球部や吹奏楽部などの部活動だけでなく、すべての生徒にそのような習慣づけが必要。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新入学生から、夏服シャツを冬服と同じく裾を入れる形のものとした。指導指針について教職員間で共通理解を持ち、生徒へも規程を明確に視覚化して示す。 ・選択したコースで進路目標をしっかりと持たせる意欲付けをしていく。また、クラスでの人間関係づくりも計画的に行う。 ・特定の部活動の生徒だけでなく、あいさつの良さなど、生徒が地域で褒められることが多くなった。引き続き社会力の育成として指導して行く。
	基本的な生活習慣の確立を図る	定期的身だしなみ指導、朝のあいさつ運動、ごみ分別指導	学校評価アンケート	B	あいさつは非常に良く、来校者等に高く評価していただいた。寮生活などで身の回りの整理整頓が不十分な生徒の指導が課題。基本的な生活習慣状況 QSE+：生徒 86、保護者 QSE+82。			
	心身ともに健康な生徒の育成を促す	講演会・講話、人権教育HR、外部相談機関等との連携、健康観察、救急訓練	出席率、皆勤率	C	外部機関と連携し、生徒の健康的な学校生活を支援した。出席率は過年度より上昇傾向ではあるが、欠席多数者もあり、また皆勤者が減少したことは残念であった。出席率 98.5%、皆勤率 22.4%。			
生徒の進路実現のため、教員の授業力・人間力の向上に努め、学力の向上を図る	学習に取り組む姿勢の向上を図る	授業規律の徹底、家庭学習時間の確保、図書館活用、朝読書	授業規律アンケート、学習時間調査	B	朝読書の学期ごとの導入や、授業規律の徹底などをとおして、学習時間の向上や、放課後の自主学習をする生徒が増加した。授業規律アンケートでは、96%の生徒が「良い」自己評価しているが、一部発言規則や提出物の期限厳守などに課題のある生徒もいた。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・就職、進学後の追跡調査を行っているか。進路のミスマッチに苦しんでいる子どもも少なくないと聞いている。 ・新しい職種や業種については保護者もよくわからない。情報を与えてほしい。 ・様々な進路に向かった卒業生のフォローが重要。継続した関わりが在校生の財産にもなるしそれ自体が学校の魅力や生徒募集につながる。 ・卒業生に自分のいる大学や企業のPRをさせることも、生徒の進路イメージづくりに効果があるのでは。 	<ul style="list-style-type: none"> ・進路先訪問を充実し、交流会や情報交換会などを企画して卒業生のフォローを行い、生の進路情報を得る場としても活用して行く。 ・H28 は本校 10 周年を迎え、1 期生もほぼ社会人となっている。卒業前に生徒に卒業生会についての認識を持たせ、組織作りを充実していく。 ・県外説明会などにその地区の卒業生をゲストで呼ぶなどして、卒業生との交流を学校での先輩講話などにも積極的に参加してもらい、相互のキャリア教育に生かす。
	日々の授業で授業改善を行う	ICT活用、アクティブラーニング導入、教職員研修	実施状況、学校評価アンケート	B	ICTやアクティブラーニングの教員研修を実施。ホワイトボード等準備し、グループ学習などに活用した。初任研と合わせ、全教科で公開授業を実施した。授業満足度 QSE+：生徒 93、保護者 77			
	進路指導を充実する	コース及び進路選択支援、上級学校訪問、高大連携、模試分析・検討、進路検討会、個別指導	学校評価アンケート、進路実現達成度	B	後援会の支援もあり、志を持った生徒への支援体制が充実してきたが、進路行事と生徒の進路目標へのつながりを持たせることに課題が残った。進路情報満足度 QSE+：生徒 89、保護者 76。			
地域を知り、地域と連携することによって、魅力と活力ある学校づくりを推進する	地域に根差したキャリア教育を実践する	ふるさと学・まちキャンの充実、ユネスコスクール活動、地域催事への参加促進	学習評価、成果発表会、催事参加率	A	地域との連携により、まちを教材とした多くの活動を行うことができた。地域から高校への催事参加要請件数も大幅に増加した。地域との連携度 QSE+：生徒 88、保護者 83	B	<ul style="list-style-type: none"> ・特に美郷町では学校の情報がまだまだ不足している。旧川本高校のイメージが残り、むしろ県外より現在のイメージが伝わっていないのではないかと。 ・地域のケーブルテレビを利用して、番組作りから関わるなどしながら情報発信してはどうか。 ・パスワード付きのSNS発信などを工夫して、生徒の活動の様子が保護者により伝わるようにしてはどうか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の地域活動を継続し粘り強く広報活動を行っていく。新しい試みとして通学バスに部活動成果などを掲示し好評であったので継続する。 ・ケーブルテレビのコンテンツとして学校行事や授業風景などを提供し、学校の中の生徒の生き生きとした様子をPRする。 ・HPの充実の他、eメッセージの加入を促進し、活用を進める。
	小中学校、地域との連携を深める	PTAとの連携強化、学校行事への参加呼びかけ、地域系部活動の充実、HPや広報誌での情報発信	学校評価アンケート	B	地域連携状況の評価はQSE+：生徒 88、保護者 83 と高く、学校の情報が校外へ発信される手だてが確立してきたが、情報発信の満足度は保護者 QSE+：74 で、きめ細かい情報発信について課題がある。			
	学校の情報や魅力の発信を充実する	HPやリーフレット、携帯電話での情報発信、オープンスクールの充実	オープンスクール評価	A	県内外の中学生や保護者、塾経営者への説明会を充実させることができた。オープンスクールでは過去最高の約 300 人の中学生の参加があり、アンケートも 4 点満点中平均 3.8 と高評価であった。中学校との連携を本校入学への意欲に結びつけることに課題が残る。			
部活動、学校行事、体験活動等を充実することにより、生徒の豊かな感性や知性を醸成する	部活動への加入を促進する	部活動紹介の充実	部活動加入率	A	部活動の入室率が 93.9%と昨年度より更に上昇した。部活動を二つ兼部し、どちらも精力的に活動する生徒も増えた。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・体育祭が平日開催で、勤めのある方、遠方の方は参加しにくい。日程を見直しては。 ・グローバルな人材育成のため、修学旅行を実施してはどうか。 ・所属者が多い部活動もあれば、人数が集まらず大会参加もままならない部活動もある。どの部も同じように目標を持って活躍できる体制作りが必要ではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学園祭を金土日の週末開催とし、生徒の活動を広く見ていただき、生徒の自己肯定感の高揚にもつなげる。 ・進学ゼミや大学見学、企業見学などの校外行事を充実する。 ・人数の少ない部も地域系部活動の形で活躍の場が設定できるようにする。また、生徒募集の際、特定の部活動以外のPRも充実する。 ・多くの人と関わる地域活動を継続し、自己肯定感を高める仕掛けを作っていく。
	部活動を活発化し実績を向上する	部活動助成、後援会との連携、地域指導者確保	大会等実績、学校評価アンケート	A	野球部の山陰大会優勝、カヌー部の国体入賞、吹奏楽部の全国大会最優秀賞、自然科学部の全国大会出場など、多くの部で実績が向上した。部活動状況 QSE+：生徒 91、保護者 92。			
	他者理解を深め、自己肯定感を高める	各種行事への参加、協働、講演会、LHR活動	学校評価アンケート	B	生徒会を中心とした自主的な企画運営が行われた。行事成果についてはQSE+：生徒 95、職員 98 と評価が高いが、学級内での自己肯定感の持ち方には課題が残る。			